

## 熊本地震体験 留学生が語る 熊本市

熊本地震では、県内の大学や短大で学ぶ約700人の留学生たちも被災した。言葉や生活が不自由な異国で震災に直面して何に不便を感じ、何を学んだのか。熊本市で10日開かれた「多文化共生留学生シンポジウム」（熊本留学生交流推進会議主催）で6カ国・地域の留学生が体験を語った。

（前田淳）

# 「助け合いの精神に感動」 「防災手引き外国語版を」

シャルマ・ゴバルさん（24）ニネパール、崇城大。「留学仲間のニネパール人は会員制交流サイト（SNS）で連絡を取り合い、情報交換をしていた。大学が休みになり、避難所でボランティアをした。全国の在日ニネパール人が集まり、600〜700人にカレーの炊き出しをしたこともあった。日本の救援態勢や助け合いの精神の素晴らしさを母国に伝えたい」

徐士昊さん（25）中国、県立大。「熊本に引っ越したとき、市役所でもらった『防災マニュアル』は日本語で書かれていて、読んでいなかった。外国語版があればいい。福岡に避難する

ためレンタカーを借りたが、通行可能な道路情報を探るのが難しかった。研究室で南阿蘇村立野地区の被害調査に関わっている。調査を元に復旧計画を考える手法は参考になる」

呉嘉瑜さん（27）台湾、県立大。「台湾でも多くの地震を経験したが、熊本地震は最悪だった。大学の避難所で友人と一緒に過ごした。パニックになることはなかった。避難所は職員と学生で整然と運営され、大変なときでもきちんとごみの分別をする避難者の姿に感銘を受けた。台湾でも熊本地震への関心は高く、一時帰国した際もニュースで大きな扱いだった」

全仁宰さん（23）韓国、熊本学園大。「熊本地震は、発生数時間後に安倍晋三首相がテレビで政府の対応方針を話している姿をみてびっくりした。韓国の慶州でも9月に大きな地震があったばかりだが、もともとは地震が少なく、災害対応は日本の方が優れているように感じる。新聞やテレビの情報には難しい言葉が多く、友人に簡単な言葉に翻訳してもらった」



熊本地震の被災体験を語る留学生たち。右からゴバルさん、徐さん、呉さん、全さん、リーさん、ラマダナさん

ムハマド・フィクリ・ラマダナさん（28）インドネシア、熊本大。「大学の体育館にインドネシア人留学生や家族80人が避難したが、日本語を話せるのは5人、他の人にルールを伝えた。ほとんどイスラム教徒で戒律に沿ったハラール食の確保に苦労した。更衣室をお祈りの場所に使わせてもらうようお願いするなど文化の違いで摩擦が起きないよう気を配った」

グエン・バオ・リーさん（21）ベトナム、熊本学園大。「来日直後に地震に遭い、『どうしてこんなひどいことになるの？』と泣いた。自然に対して恨み言を言わない日本人はすごい。留学生寮の1階に集まり、靴を履いたまま寝た。兵役を経験した韓国人男子学生が重い物資を運んでくれたり、カナダ人学生が料理を振る舞ってくれたり、周囲の助けで立ち直った」